北 部 イ ン ド に お け る ら い

(第 10 報) 治療に対する再来患者の評価

中 井 栄 一

(国立療養所長島愛生園, 京都大学医学部附属皮膚病特別研究施設)

(受付: 1982年2月19日)

1996年初頭, インド, U. P. 州, Etawah 市郊外に JALMA によって設置されたらい患者の為に クリニックでは, はじめの数年間毎週の金曜日に, 後には隔週の金曜日に Ghatampur クリニックからの帰途, Agra センターの医療スタッフによって診療がおこなわれた。

本報告では, Etawah クリニックでの治療に対して再来患者がどのような評価を与えていたかを検討した。患者が必要に応じて, 又規則的にクリニックを訪れるには, 経済的, 時間的な余裕が不可欠であるが, 同時に治療に対する患者側の評価が自主的な治療継続に大きな影響を与えるものとおもわれる。治療効果に対する客観的な評価は別になされた^(1,2)。

本報告では上述の視点より患者の治療に対する評価を分析検討した。将来, 更に効果的な診療のあり方を検討する上に何らかの手がかりとなれば幸である。

対象と方法

JALMA の Etawah クリニックで, 1971年9月から10月にかけての4回の診療において調査をおこなった。調査様式は治療による効果の有無を患者に質問し, それに対する回答を患者側の評価として, 患者個人別に用意した調査用紙に質問者が記入した。

対象は上記の期間中にクリニックを訪れた患者のうちで, 治療開始後当該時点までの治療予定期間の50%以上にわたる治療 (The fairly regular treatment) をうけた者全員とした⁽³⁾。

当時は, 特別な患者を除いて, 大部分の患者には1~2カ月分の薬を手渡し, 自己管理下で服用するような指導をおこなっていた。

治療予定期間を治療開始後3カ月, 6カ月, 1年, 2年, 3年, 4年等未満及び4年以上にわけ, 各々の群について検討した。4年以上の患者群には最高5年10カ月の患者がふくまれたが, これは Etawah クリニックが

開設されて以後, 本調査をおこなった時点までの年月である。

結果と考察

1. 患者数について

対象患者は1,044名で男子941名, 女子103名であった。男子は全体の90%, 女子は10%にあたり, 男女比は9.1:1であった(表1)。同年4月から8月にかけて同クリニックで新たに登録された患者の男女比は4.2:1であった(表2)。女子では再来としてクリニックに出てくる患者の比率は, 男子に対して, 新患登録時の1/2以下である。女子再来患者の比率が低下するのは, インド社会, 特に地方における女子の外出を禁止する習慣が影響を与えているとおもわれる⁽⁴⁾。

型群別に新患, 再来間の患者数変動をみると, 再来患者全体に対してL型の比率は, 新患登録時に比して増加しており, B型では減少していた。T型でもやや減少していた。対象の再来群でL型患者の比率の増加がみられるのは, 治療の必要性和同時に患者側における疾病, 病状に対する認識, 自覚の程度が大きな影響力を及ぼしていると思われた。L型患者におけるこの現象は男女間での差がみられなかった。

対象者の年齢別構成においては, 30-39年齢層に患者数の最高値がみられた。次いで40-49, 50-59年齢層と, 患者数はむしろ高齢に偏していた(表3)。一方新登録患者では20-29年齢層に患者数の最高値がみられた⁽⁴⁾。これは治療が長期に亘る場合の, 患者の加齢による結果とも考えられるが, より高齢層における疾病に対する自覚, 認識の強化が影響を及ぼしているだろう。一般によく治療方針を守って良好な治療効果を示すのは, 若年層よりは, 高齢の男性である。

治療期間別患者数では, 全体としては治療開始後1年未満の群において最多であった(表4)。それ以後は年月

を経るに従って患者数の減少がみられた。4年以上の群では患者数は全体の 24.4% を占めたが、この群には5年以上の患者も含まれていた。

4年以上の患者数においては、L型が40.4%、T型が46.7%をしめたが、全体としては夫々31.1%、47.2%であり、この群におけるL型優位がみとめられた。このことは、クリニック開設頭初にL型患者を多く登録したことにも依るだろうが、L型患者が特に治療に対して熱意を示すことも考えられた⁽⁵⁾。

2. 治療に対する評価

Table 1 Type distribution of the patients

Sex Type	Male	Female	Total
Lepromatous	298, 31.7%	27, 26.2%	325, 31.1%
Tuberculoid	435, 46.2%	58, 56.3%	493, 47.2%
Polyneuritic	66, 7.0%	4, 3.9%	70, 6.7%
Borderline	133, 14.1%	12, 11.7%	145, 13.9%
Indeterminate	9, 1.0%	2, 1.9%	11, 1.1%
Total	941	103	1,044

Male: Female=9.1:1

Table 2 Type distribution of newly registered patients

(1971, 4—1971, 8)

Sex Type	Male	Female	Total
Lepromatous	50, 20.4%	9, 15.5%	59, 19.5%
Tuberculoid	120, 49.0%	33, 56.9%	153, 50.5%
Polyneuritic	15, 6.1%	1, 1.7%	16, 5.3%
Borderline	55, 22.4%	15, 25.9%	70, 23.1%
Indeterminate	5, 2.0%	—	5, 1.6%
Total	245	58	303

Male: Female=4.2:1

Table 4 Distribution of the patients according to the treatment period

Period Sex	— 3ms —	6ms —	1y —	2ys —	3ys —	4ys —	Total	
Male	113	77	102	154	149	113	233	941
Female	23	8	9	16	18	7	22	103
Total	136	85	111	170	167	120	255	1,044
	31.8%			16.3%	16.0%	11.5%	24.4%	

Table 3 Age and sex distribution of the patients

Sex Age	Male	Female	Total
0—9	3	2	5
10—19	53	11	64
20—29	148	22	170
30—39	254	28	282
40—49	217	16	233
50—59	165	12	177
60—	101	12	113
Total	941	103	1,044

「病状がよかった。」と答えたのは、男子で50.6%、女子で38.8%であった（表5, 6）。何らかの症状を訴えたものは男女共に50%以下であった。

男女間における評価の差は「良くなった。」と「変化なし。」に関する比率の差としてみられる。女子に「変化なし。」が高率であったのは、その症状が男子の場合と違うことによるのかも知れないが、女子では治療に対する不満度の高い患者が外来に多く来る傾向があるのかも知れない。一般に慢性疾患をもつ患者の場合「良くなった」と自覚すれば治療を中止する傾向が考えられる。

何らかの訴えをもった者の中では、四肢の知覚鈍麻を訴えたのが男女の16~18%にみられた。四肢の疼痛は女子の約11%、男子の8%にみられたが、女子に痛みについての訴えが多かったことは、男女間の臨床症状の差によるのかも知れない（表5, 6）。

「よくなった」と答えたもののうち男子患者について、治療期間の長短による比率の変化をみると、L型では治療開始後6カ月~1年未満で50%以上に上昇していた。そしてそれ以後は常に50%以上を維持していた（図1）。T型では同じ期間では急激な上昇がみられ1つの著明なピークを示したが、以後は下降し50%線を上下していた。B群では治療開始後3カ月までの値はL, T型

群に比べて低かったが、6カ月ではほぼ他二者と同程度まで上昇を示した。以後は50%に達しない場合が多かった。L、T型群では、治療開始後1年まででは半数以上は治療について満足するようになると考えられた。特

Table 5 Evaluation for the treatment (Male)

Evaluation or complaints	L	T	P	B	I	Total	%
Better	162	221	28	59	6	476	50.6
No change	9	30	3	11	2	55	5.8
Worse	1	—	—	1	—	2	0.2
Anaesthesia of the extremities	38	83	14	32	—	167	17.7
Pain of the extremities	29	34	7	8	1	79	8.4
Burning sensation or loss of sweating	23	18	1	10	—	52	5.5
Plantar ulcer	6	12	7	4	—	29	3.1
Deformity	4	20	2	2	—	28	3.0
Itching of the body	10	12	3	3	—	28	3.0
Reactional stage	9	2	—	—	—	11	1.2
Others	7	3	1	3	—	14	1.5
Total	298	435	66	133	9	941	100.0

Table 6 Evaluation for the treatment (Female)

Evaluation or complaints	L	T	P	B	I	Total	%
Better	9	22	1	6	2	40	38.8
No. change	1	12	—	1	—	14	13.6
Worse	—	—	—	—	—	—	—
Anaesthesia of the extremities	4	9	1	3	—	17	16.5
Pain of the extremities	4	5	1	1	—	11	10.7
Burning sensation or loss of sweating	2	1	1	—	—	4	3.9
Plantar ulcer	1	1	—	—	—	2	1.9
Deformity	—	3	—	1	—	4	3.9
Itching of the body	—	2	—	—	—	2	1.9
Reactional stage	2	—	—	—	—	2	1.9
Others	4	3	—	—	—	7	6.8
Total	27	58	4	12	2	103	99.9

にT型ではその比率は高かった。これは比較的規則正しい治療を受ける患者群においては、少なくとも1年間は治療をつづけなければ、ある程度の評価は得られず、従って治療効果も得られないことを示すだろう。B群においては全期間を通じて患者のうちで良い評価を与える者の比率がやや低いのは、他の型に比べてその症状がより複雑であることによるだろう^(4,6,7)。

全体としてL型の54.6%, T型の50.8%, B群の44.4%が良い評価を与えた。

このような評価に対する型群間の差異は上述のように夫々の症状の差異によると思われる。L型の初期ではむしろ皮疹が著明であり、末梢神経障害による症状があまり明瞭ではないことがL型における評価に反映されているだろう。どの型群においても治療開始後比較的短期間に皮疹の改善がみられ、治療効果があったと評価された。B群において良い評価を与える患者の比率が低いのは、広範囲に広がった皮疹と、末梢神経障害による知覚麻痺が特に強く意識されるからと思われる。

全体として、対象患者の49.4%が治療に対して良い評価を与えた。男子の約6%, 女子では約14%が治療によって「変化なし」の評価を与えたが、この患者達はやがて治療をつづける意欲を喪失し脱落していくものと考えられた。何らかの訴えをもちつづける患者に対しては、一層の適切な治療がおこなわれなければ、この群からもうやがて脱落者が出てくるであろう。患者一人一人に対する充分な治療と適切な指導の必要性が改めて痛感せられた。

本調査における対象患者は比較的規則正しい治療を継

Fig. 1 The percentage of the patient number who had better condition by the treatment according to the type and group and the scheduled period for treatment. (Male)

続しているものであった。しかし、このような調査は、不規則な治療をつづけている患者、又治療を中止してしまった患者についてこそおこなわれるべきであろう。それらの結果の分析によって、患者の希望することがらがより鮮明になると思われるからである。この意味では本調査は予備的なものであった。対象群を更に拡大して調査をつづければ、クリニックにおけるより一層効果的な診療を実現する為に多くの示唆が得られるものと思われる。

結 語

1971年、インド、U.P.州、Etawah 市にあるらい患者のためのクリニックに於て、再来患者から治療に対する評価を求めた。対象は比較的規則正しく治療を継続している患者をえらんだ。男子941名、女子103名の1,044名であった。対象の女子患者数が少いのは女子の外出に対して社会的因子が働いており、女子患者が少いではなかった。L型患者では男女共に比較的よく治療をうけており、疾病に対する患者の認識がうかがわれた。

対象では新登録患者に比べてやや高齢層に偏して患者数の最高値がみられた。治療予定期間別患者数では全体として治療開始後1年未満にピークがみられ、それ以後は年月の経過に従い減少した。

治療に対してよい評価を与えたのは男子で50%、女子で39%であり、全体としては50%に満たなかった。何らかの訴えを持ったものは男女共に50%以下であった。

症型別、治療予定期間別に、よい評価を与えた患者の

比率を男子にみると、L型患者では治療開始後6カ月—1年で50%以上に達しそれ以後も常に50%以上にとどまっていた。T型患者では同じ期間では70%近くに達したが後下降し、常に50%線を上下していた。B群ではこの比率は全期間を通じて低かった。

治療開始後1年未満で多くの患者が治療に対してよい評価を与えるようになることがわかった。

文 献

- 1) 中井栄一：北部インドにおけるらい，Ⅶ，治療効果と治療中止による病型の移動—T型を中心に—，日本らい学会雑誌，50(4)，185-191 (1981)。
- 2) 中井栄一：北部インドにおけるらい，Ⅸ，Ghampur Tahsil に居住するL型らい患者に対する治療効果について，日本らい学会雑誌，51(2)，68-74(1982)。
- 3) 中井栄一：北部インドにおけるらい，Ⅱ，Ghampur ブロックにおけるらい患者の疫学的考察，日本らい学会雑誌，49(2)，77-86 (1980)。
- 4) 中井栄一：北部インドにおけるらい，Ⅳ，L型患者における主訴と臨床症状について，日本らい学会雑誌，49(3)，145-152 (1980)。
- 5) 中井栄一：未発表資料。
- 6) 中井栄一：北部インドにおけるらい，Ⅴ，T型患者における主訴と臨床症状について，日本らい学会雑誌，50(1)，8-14 (1981)。
- 7) 中井栄一：北部インドにおけるらい，Ⅵ，B群患者における主訴と臨床症状について，日本らい学会雑誌，50(1)，15-21 (1981)。

Leprosy in the Northern India

X. Evaluation of the Treatment by the Patients

EIICHI NAKAI

*(National Leprosarium Nagashima Aisei-en & Leprosy Research Laboratory,
School of Medicine, Kyoto University)*

This study is based on the data which were collected at Etawah clinic, Uttar Pradesh State, India, from September to October of 1971. The clinic was established by JALMA in January of 1966 and the staff of Agra Center of JALMA attended there once a week or two weeks.

The data were analyzed in the point of view that the satisfaction or evaluation of the patients to the treatment will have an important influence for them to continue the regular and long period treatment at out patient clinics, especially in the cases of the patients who are suffering from chronic diseases such as leprosy.

The number of male patients was 941, female 103 and totally 1,044 in the object group. The male-female rate was 9.1 : 1 and it showed the decrease of the female patient number compared to the male-female rate of the newly registered patients in the same year. Some social and historical factors were supposed to have an influence for the decrease of female patient number attending to the clinic.

The rate of the patient who gave a good evaluation to the treatment were 50% from male group and 39% from female. The rate of patient who complained of any symptoms was below 50% in both sex groups. There was a difference of the evaluation between male and female groups and it seemed due to the higher percentage of female patients who answered 'No change'.

Over 50% patients out of male lepromatous group gave a good evaluation and the value did not depend on the length of the treatment period. Out of male tuberculoid patients, about 70% showed a satisfaction after 6 month to one year treatment, but the value went down to 50% after the period and it waved from the higher to the lower areas of the 50% line or con-trarily. From male borderline group, only 25% patients showed a good evaluation after three month treatment and even after the period, the value stayed lower than 50% generally.

The difference of the evaluation by the patients seemed due to the various symptoms and reaction to the treatment observed in the different types or groups of the disease.

Further analization of the investigation will give useful suggestions to the health education for the patients who must continue the regular treatment at the clinics.